

2018年12月16日(日)朝10:10~

12月第3公同主日礼拝式説教

C S、

日本アライアンス庄原基督教會

説教題：**その子は、あなたにとって喜びとなり、楽しみとなる**

聖書：ルカ 1章8~17節

<口語訳>

旧約聖書82頁

ルカ 1章8~17節

<新共同訳>

旧約聖書99頁

ルカ 1章8~17節

<新改訳第3版>

旧約聖書105頁

ルカ 1章8~17節

<塚本訳>

新約聖書 ~ 頁

(全節を朗読)

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救いを神の福音として告げた書**です。

◇本日は**クリスマス待降節第3主日**です。

⇒「**ルカ福音書1章8～17節**」が、牧会手帳で指定された**待降節3主日**の使信で、神の幻を見せられたザカリヤによるその子ヨハネへの預言的使信の箇所です。

◇「**ルカ福音書1章8～17節**」は、**祭司ザカリヤ**が、くじによる当番で神殿で香をたくご奉仕をした時、御使いが現れ、**妻エリサベツ**による男の子の誕生とその子を「**ヨハネ**」と名付ける命令とその子が特別の賜物をもって生きるとの知らせを受ける箇所です。

⇒名前に意味があり、「**ザカリヤ**」は、「主は覚えておられる」、「**エリサベツ**」は、「神は誓う者」、「**ヨハネ**」は、「主は恵んでくださる」です。

⇒それぞれが、「**主の誕生**」を待望させるのに相応しい意味の名前が用意されていたことを知ることができます。

⇒特に、旧約の最後で偉大な預言者と言われる「**ヨハネ**」の名は、御使いが告げたのです。

本論；

◇本日、ルカ福音書1章8～17節から主の使信に思い・心^{vous}をとめます。

◆ルカ1章8～17節 祭司ザカリヤは、「神殿の香壇」で、香をたいていた時、「御使い」が現れ、我が子ヨハネの誕生とその子の使命を告知されました。

◇塚本訳 ルカ1:8～17

「8 さてザカリヤの組が当番で、宮にて祭司の務をしていた時のこと、

9 (ある日)彼が祭司職の習わしに従って籤を引いたところ、主の聖所に入って香をたく役目にあたった。

10 (きょうザカリヤには一生にただ一度ゆるされる幸運がのぞんだのである。ザカリヤが)香をたいている時、一般の民衆は皆(いつものとおり)外で祈っていた。

11 (すると)突然一人の主の使がザカリヤに現われ、香壇の右、(ザカリヤの向かって左)に立っていた。

12 それを見てザカリヤは胸さわぎがし、恐ろしさが彼をおそった。

- 13 天使が言った、「ザカリヤ、『恐れることは
ない。あなたの』(かねての)祈りは『聞きいれ
られた。』妻エリサベツは男の子を産むで
あろう。その名をヨハネとつけよ。
- 14 この子はあなたの喜びであり、楽しみであり、
多くの人もその誕生を喜ぶであろう。
- 15 主の前に大いなる者となるからである。
『彼は決して葡萄酒や強い酒を飲まない。』
(そのかわり)母の胎内からすでに聖霊に
満たされ、(それに)酔っている。
- 16 彼は多くのイスラエルの子孫を、彼らの神
なる主に立ち返らせるであろう。
- 17 (そればかりか、)『(預言者)エリヤの』靈と力
とをもって主(救世主)の先駆けをし、『父の心
を(ふたたび)子に』(向けさせて家をきよめ、)
また不従順な者を義人と同じ考えに『立ち
返らせて、』準備のできた民を主のために
用意するであろう。」と、「祭司ザカリヤ」は、
御使いの告知を受けたのです。
- ◇8～10節；「ザカリヤの組が当番で、宮にて
祭司の務をしていた時」、「(ある日)彼が祭司
職の習わしに従って籤を引いたところ、主の

聖所に入って香をたく役目にあたった」、「(きょうザカリヤには一生にただ一度ゆるされる幸運がのぞんだのである、ザカリヤが)香をたいている時」、「一般の民衆は皆(いつものとおり)外で祈っていた」と、祭司ザカリヤの当番に選ばれた状況と神からの語りかけをじっと待つ民衆の様子が描かれています。

⇒ルカは、暗黙のうちに「待つ」ことに神信仰を連想させています。

◇11～17節 ; 「(すると)突然一人の主の使がザカリヤに 現われ、香壇の右、(ザカリヤの向かって左)に立っていた」、「それを見てザカリヤは胸さわぎがし、恐ろしさが彼をおそった」、「天使が言った、「ザカリヤ、『恐れることはない。あなたの』(かねての)祈りは『聞きいれられた。』 妻エリサベツは男の子を産むであろう。その名をヨハネとつけよ」、「この子はあなたの喜びであり、楽しみであり、多くの人もその誕生を喜ぶ」、「主の前に大いなる者となるからである」、「『彼は決して葡萄酒や強い酒を飲まない。』(そのかわり)母の胎内からすでに聖霊に満たされ、(それに)

酔っている』、「彼(ヨハネ)は多くのイスラエルの子孫を、彼らの神なる主に立ち返らせる」、『(そればかりか、)『(預言者)エリヤの』靈と力をもって主(救世主)の先駆けをし、『父の心を(ふたたび)子に』(向けさせて家をきよめ、)また不従順な者を義人と同じ考えに『立ち返らせて、』準備のできた民を主のために用意する」と、「ザカリヤの子ヨハネ」が、『(預言者)エリヤの靈と力をもって』、『不従順な者を義人と同じ考えに『立ち返らせて、準備のできた民を主のために用意する』働きをすることがザラリヤに告げられます。

⇒今日の箇所では省略されていますが、この幻を知られ、御使いのことばを信じなかつたザカリヤは、「**ヨハネ**」が誕生するまで、口がきけなくなるのです。

⇒「この子はあなたの喜びであり、楽しみであり、多くの人もその誕生を喜ぶ」は、ザカリヤのみならず、神殿の外でザラリヤのことばを待っていた民衆も、期待していたものでした。

⇒「**ヨハネ**」は、ユダヤ人には、期待の星でした。

⇒神にとつても、「ヨハネ」は、「救い主」の先駆けとして一層大いなる存在でした。

⇒「ヨハネ」が、旧約最終で最大の預言者と称されるのは、「救い主」の先駆けであるからです。旧約の多くの預言者は、「救い主」の先駆けをめざしながらその役目を終えていました。

⇒「ヨハネ」は、ユダヤの領主として君臨していたヘロデによって、斬首される人生の終わりを迎えたが、主が名前をつけられた通り、多くの人に「主は恵みを下さった」のです。

⇒「ヨハネ」は、17節に、「(預言者)エリヤの靈と力とをもって」、「民を主のために用意する」ことが、重要な任務でした。ヘロデは愚かな選択をしましたが、主も、民衆も、最後まで、「ヨハネ」にある「この子はあなたの喜びであり、楽しみであり、多くの人もその誕生を喜ぶ」を身をもって示しました。「ヨハネ」は自分自身を喜ばせませんでしたが。

⇒「ヨハネは死んだ」が、「ヨハネは主のことばの先駆けとして生きている」のです。

⇒私たちも、小さい者ですが、再臨の主の先駆けとして、神不信の時代を生かされたい。

結論；

◇**神**は、昔も今も、変わらず愛の神、思いやりの神です。

◇「ルカ福音書1章8～17節」は、**祭司ザカリヤ**が、くじによる当番で神殿で香をたくご奉仕をした時、御使いが現れ、**妻エリサベツ**による男の子の誕生とその子を「**ヨハネ**」と名付ける命令とその子が特別の賜物をもって生きるとの知らせを受ける箇所です。

⇒名前に意味があり、「**ザカリヤ**」は、「主は覚えておられる」、「**エリサベツ**」は、「神は誓う者」、「**ヨハネ**」は、「主は恵んでくださる」です。

⇒それぞれが、「**主の誕生**」を待望させるのに相応しい意味の名前が用意されていたことを知ることができます。

⇒特に、旧約の最後で偉大な預言者と言われる「**ヨハネ**」の名は、御使いが告げたのです。

◇「**ヨハネ**」は、「**救い主**」の先駆けで、「**民を主のために用意する悔い改めのバプテスマ**」を授けました。

⇒私たちは、「**救い主**」の再臨の先駆けとして、聖霊のバプテスマを証したい。